

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日~2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

カンボジア王国

ポニャー・ルウ地域開発プログラム(CAM-182126)



チャイルドストーリー

学校でクラス委員を務めるダルチ君(12歳)

支援を受けて将来に 希望が持てるようになったダルチ君

ポニャー・ルウ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすダルチ君は、食料品店を営む母親と祖父母、弟とともに暮らしています。父親は家族の元から去り、ほかの女性と再婚してしまいました。父親が去ってから、ダルチ君は口数が少なくなり、友だちともあまり遊ばず、何事にも消極的になっていました。しかし、ワールド・ビジョン(以下、WV)のチャイルドとして登録され、スタッフが頻繁に訪問してくれるようになり、衛生的で規律正しい生活や教育の大切さを学んだダルチ君は大きく変わりました。今では学校でクラス委員を務め、「よい子ども・生徒・友だち」コンテストで金メダルを3つも獲得する、優秀で積極的な生徒です。勇気があり勤勉で、誰にでも気持ち良く接するダルチ君はクラスの皆に好かれています。「息子がこんなに変わるとは思いませんでした」と母親も驚いています。

ダルチ君の将来の夢は学校の先生になることです。「将来に明るい希望があるということ、僕もほかの子どもたちに伝えたいです」と笑顔で話してくれました。



母親と弟とともに。家では弟の面倒を見たり、積極的にお手伝いをする頼もしいお兄さんです

子どもの安全プロジェクト

子どもが安心して暮らせる家庭、地域社会の形成を目指して活動しています



家庭内暴力とその防止についての研修を3回実施

支援地域では、貧しさによる不満のはけ口として、子どもたちが家庭内暴力やアルコール依存の犠牲になってしまうケースがあります。また、労働搾取や暴力、ギャンブルなどのリスクにもさらされています。このため、ADPは地域の人々と協力して、子どもたちが安心して暮らせる家庭や地域社会を形成するための活動を行っています。2014年度は、のべ283人を対象に、家庭内暴力とその防止についての研修を3回実施しました。

また、17の青少年グループが、子どもの権利と安全のために積極的に活動しており、家庭内暴力がある場合には子どもたち同士で助け合うようになってきています。



子どもの権利と虐待防止のための、青少年グループによる啓発活動の様子

保健衛生プロジェクト

政府の保健サービスへの信頼と連携が進んでいます

妊産婦や子どもの保護者に対して啓発や研修を継続した結果、保健センターの利用率が向上しています。2014年度、自宅ではなく保健センターで出産した妊婦の数は、2013年度の283人から大幅に増加し、364人となりました。

地域の保健センターで対応しきれない病気やけがの場合、都市部や専門の病院に移送する必要がありますが、費用が負担でせずに受診を諦める患者も少なくありません。そこでADPでは、村人同士が資金を出し合い、緊急時に対応するための基金の設立を支援しました。この結果、対象の34村のうち、30村で基金が設置され、2014年度は24人の子どもたちの治療に基金が活用されました。



子どもの下痢予防について学ぶ地域の人々



地域のボランティア(右)から産前健診の重要性や妊娠中に必要な栄養素についての説明を受ける女性たち



地域の保健センターで出産した妊婦の数が増加

283人 → 364人
(2013年) (2014年)

教育プロジェクト

保護者や学校関係者とともに教育の質の向上に取り組んでいます

これまでのADPの取り組みの結果、地域の保護者の95%が子どもの教育の重要性を理解しているという調査結果が得られました。しかし子どもたちを受け入れる学校には、運営上の問題や教師の指導能力不足など、まだ多くの課題があります。そこでADPは、保護者と学校関係者の話し合いを促してきました。その結果、教師の指導方法に改善が見られるようになりました。教育省は教員の能力をチェックするようになり、保護者や地域住民も学校施設の改善のために協力するようになってきています。

2014年度は子どもの読み書き能力のテストを実施しました。小学校6年生を終了した時点で、十分な読み書き能力を有している子どもの割合は、53%という結果でした。この結果を今後定期的にモニタリングし、向上に取り組んでいきます。

地域の保護者の**95%**が
子どもの教育の重要性を理解



小学校の「子どもクラブ」で音読をする子どもたち。音読を通して語彙が増え、読み書き能力も向上します



支援地域の女性のインタビュー

保健や衛生に関する知識を得て、家庭で実践しています

Q.ADPのどのような活動に参加していますか。

保健・衛生の研修に参加し、清潔な水や衛生的な環境の大切さについて学びました。また、産前産後のケア、子どもの栄養、下痢対策についても研修を受けました。貯蓄グループにも参加し、養鶏の研修も受けています。

Q.ADPの活動に参加してどのような変化がありましたか。

家にトイレができました。また、研修で学んだ保健や衛生に関する知識を家で実践しています。家族のために栄養価の高い食事を作ることもできるようになりました。

Q.今の夢を教えてください。

小さい頃は学校の先生になるのが夢でしたが、私は9年生の時に学校を中退したので夢が叶いませんでした。子どもたちには高校までは卒業させてあげたいです。そして良い職業に就き、幸せな人生を送って欲しいと願っています。



支援地域に住むポムさん(35歳)。一番下の子ども(写真手前)は保健センターで出産しました

ADPスタッフ・インタビュー



Q.ADPでどのような仕事をしていますか。

地域に住む子どもたちやその保護者にADPの活動に参加するよう促したり、地域の人々のための研修を実施したりしています。また、チャイルド・スポンサーと子どもたちが良い関係を築けるよう、手紙や成長報告を届ける仕事も担当しています。

Q.2014年、仕事で大変だったことは何ですか。

一つは支援地域の近くに縫製工場ができ、そこで働くために学校を中退してしまう子どもたちが出たことです。私たちは、子どもたちやその保護者に対して、教育の重要性を訴え、中退しないように説得しましたが、それでも中退者が出たのは残念でした。もう一つは、最も貧しい家庭ではまだまだ衛生状態が良くないことです。ADPでは今後も地域の保健ボランティア・グループと連携しながら、人々の保健や衛生に対する意識を向上させるための活動を続けていきたいと思っています。



ポニー・ルウADPスタッフ ダラ・トーン (28歳)

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



安全で住みやすい地域作りについて話し合う青少年グループのメンバーたち

子ども自身による子どものための地域づくりを推進しています

チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

ポニー・ルウADPでは現在、青少年グループなど29の住民グループと連携し、子どもたちの権利の促進、安全で住みやすい地域づくりの推進を支援しています。青少年を中心に、子ども自身の参加による地域づくりが進められています。

会計報告

CAM-182126

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

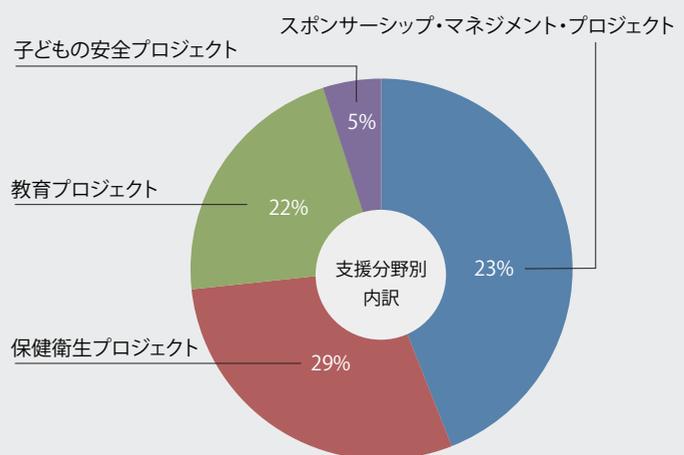
プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	28,376,631
当期支援額	28,376,631
前期繰越金	2,160,226
プログラム支援額合計	30,536,857

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	13,076,637
保健衛生プロジェクト	8,702,744
教育プロジェクト	6,464,733
子どもの安全プロジェクト	1,467,295

プログラム支出額合計	29,711,409
次期繰越額	825,448



スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクトは、子どもや地域住民の参加を促進する取り組みの費用を含みます。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
 電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
 FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
 e-mail：dservice@worldvision.or.jp